

輸出事業計画

※申請者名：(株)新潟クボタ、品目：コメ・パックご飯

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・ 2012年よりクボタを通して新潟県産米の輸出取組とあわせ輸出米の取扱いを開始。玄米で輸出を行い現地で精米することで、良品質・良食味米を提供し他国産と差別化することにより、香港・シンガポールでの需要拡大とあわせ取扱い量も拡大。
- ・ 自社グループで輸出を行うモンゴル、ならびにクボタが輸出を行っている香港、シンガポールをターゲット国とし、当該国における米消費の大部分を占める外食業務向けを中心とした販売と連携し取組を実施。

【課題】

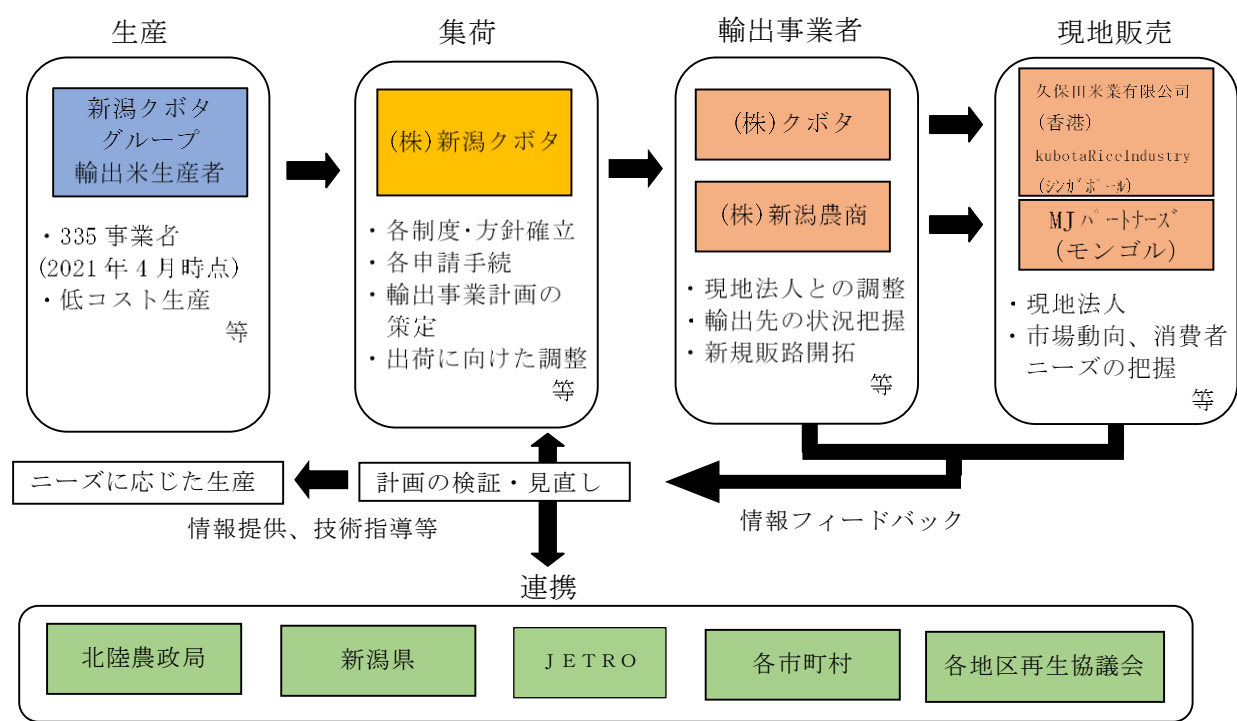
- ・ 米需要の減少を見据え、海外での需要創出を生み出すため、マーケットインの考えの下、低コスト・省力化・良質米の生産を如何に行い、生産者の収入確保と実需者へ安定した価格で必要数量を継続して供給できるかが課題である。
- ・ 販売においては、他国産米や同業他社との日本産米での価格競争などが課題である。また集荷業務の人員確保、ならびに輸出米を保管するための定温倉庫の確保が難しく、保管経費などの関連経費も増加している。

2. 輸出事業計画の取組内容

- ・ 生産者に対して、スマート農業を活用した省力化・低コスト農業やみどりの食料システム戦略に沿った栽培体系を提案することで、収益確保と品質向上に向けた取り組みを行い、クボタグループの総合力を活かした産地を育成する。
- ・ 当初からの取り組みである玄米輸出、現地精米を行い、良品質・良食味米をPRすることで他国産米との差別化を図ることを継続し、安心安全な日本産米の更なる販売拡大に対応できる産地づくりを行っていく。
- ・ 現在、香港・シンガポールにおける外食業務用米を中心とした取組に適応した品種生産を重点的に行い、モンゴルでは消費ニーズに合わせた品種のラインナップを揃えることで現地の各消費者層の裾野を広げる取り組みを行う。
- ・ 輸出関連経費も増加しているため、関連する各業種の企業や行政団体と連携を行うことにより課題解決を行っていく。
- ・ 自社グループで米輸出を行うモンゴル、ならびに(株)クボタが輸出を行っている香港、シンガポールをターゲット国と位置づけ、クボタグループ内で連携を図ることにより、現地のニーズに合わせた供給体制を確立していく。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- 事業全体では、(株)新潟クボタが主体となり実需者である(株)クボタと(株)新潟農商と連携することで現地のニーズや要求事項を把握整理し、生産者へ情報提供・連携をとることにより、ニーズに沿った生産体制を構築する。
- 各行政団体と連携を図ることにより交付金制度や各種申請など情報提供や相談を行うことにより、各生産者の課題解決にむけて、官民一体となった産地体制を形成する。



4. 輸出目標額

輸出品目：コメ・パックご飯

		現状 (令和2年)	目標年 (令和7年)	備考
地区	輸出額(千円)	280,000	330,000	
	輸出量 (t)	1,700t	2,000t	
	輸出先国	香港/シンガポール/モンゴル	香港/シンガポール/モンゴル	
	生産量/取扱量	2,700t	2,800t	